



本会記事

■第37回プラズマ若手夏の学校報告

今年の夏の学校は、1998年7月27日から7月30日まで長野県茅野市の白樺湖畔において開催されました。プラズマ・核融合分野の多くの若手研究者が集い、参加者の総勢は140名を超えました。時折、小雨が混じる曇りがちの天気でしたが、夏の暑さを凌ぎながら勉強する最適な環境でした。

例年同様、本年もプラズマ・核融合研究の最前線でご活躍中の先生方をお迎えし、我々若手のためにわかりやすい講演をしていただきました。講演内容は多岐にわたり、核融合に関するトピックス、プラズマ基礎および応用、シミュレーション等が催されました。核融合分野では、核融合科学研究所の藤原正巳先生に“大型ヘリカル装置（LHD）実験とヘリカル系閉じ込め研究”，日本原子力研究所の伊丹 潔先生には，“JT-60U 高性能プラズマ実験の進展”という題目で講演していただきました。両先生方には、各装置における最新の実験結果を中心に今後の研究計画や問題点等も交えて貴重な講演をしていただきました。核融合研究を志す若手研究者にとっては大いに励みとなる印象深いものでした。プラズマ基礎関連では、名古屋大学の高村秀一先生に“固体表面へのプラズマ熱流入の基礎過程”という題目で、シースを介したプラズマと固体表面との多様な相互作用を平易に解説していただきました。また、プラズマ応用分野では、大阪大学の田原弘一先生に“電気ロケットの開発研究と内部物理現象”，豊田工業大学の原 民夫先生に“小型 X 線レーザーの研究”，そして、荏原総合研究所の菊池

猛先生には“熱プラズマによる都市ごみ焼却残さの溶融処理”という題目で講演をしていただきました。核融合研究を中心に発展してきたプラズマ物理学が、様々な産業分野で利用・応用されている幾つもの例を紹介していただきました。若手にとっては目新しい一面もあり、ますます異分野との交流・協力の重要性が高まっていることを実感しました。東京工業大学の矢部 孝先生には、“固体・液体・気体・プラズマの汎用数値解法 CIP 法”という題目で、様々な物質状態・混相系へ適用可能な新シミュレーション技法を紹介していただきました。また、今回の夏の学校では、科学技術政策や科学技術者としての責任を再認識するという意味で、信州大学の調 麻佐志先生に、“科学という「制度」の老朽化”という題目で講演をしていただきました。講演全体を通して活発な討論が行われ、質疑応答の時間を過ぎる講演も少なくありませんでした。これは、プラズマ・核融合研究に関する関心の高さの現れだと思います。

学生の情報交換および親睦の場として、今年もディスカッション（8件）およびポスターセッション（47件）が催されました。日頃、学会等で質問のしにくい基礎事項や細部にわたる討論が多く行われました。活発な議論を通してお互いの理解がより深められ、若手のつながりを強めるのに一躍かったものと思います。

最後に、夏の学校を運営する上で多くの方々の協力をいただきました。講演をしていただいた先生方には快く引き受けていただき、若手のために多くの時間を割いていただきました。また、前年度担当の日本大学スタッフおよびプラズマ・核融合学会の職員の方々には心強い協力を得ました。ここに心から感謝いたします。来年の担当校、東京大学のみなさん、頑張ってください。

（第37回校長 名古屋大学大学院工学研究科 布村正太）

